

魅力ある観光都市松本への提言
—在住外国人語学教師の視点から—

中 田 和 子

A Proposal for Helping Make Matsumoto
More Internationally Minded
—From the View Point of Foreign Teachers Living in Matsumoto—

Kazuko NAKATA

目次

1. はじめに
2. 在住外国人語学教師の松本市及び近隣地区に対する評価調査
3. 観光都市として松本市が抱える課題についての考察と提言
4. おわりに

1 はじめに

松本市は、天正18年（1590年）、石川数正氏が入府し、その子康長と共に松本城を築いてから（1593～1594年）415年もの長きに渡り栄えてきた城下町である。その間、城下町の中心である松本城は、明治維新の廃仏毀釈のおおりを受け、廃城寸前となる苦境を経ながらも、良識ある市民^{注1)}にその危機を救われ現存するに至っている。

1936年には国宝に指定され^{注2)}、現在は国宝松本城として、日本人のみならず、海外からの観光客の観光の中心として重要な役割を担っている。松本市はその他、重要文化財旧開智学校、松本市立博物館、日本浮世絵博物館、松本市歴史の里、旧司祭館、時計博物館、はかり博物館、などの価値ある文化的観光資源に恵まれている。さらに、2005年4月には四賀、梓川、安曇、奈川の4村と合併、乗鞍高原、上高地、野麦峠なども市内に含まれることとなり、自然観光資源の面でも充実し、いまや県内有数の観光都市となった。

一方、政府は2003年に「観光立国」を宣言、いわゆるヴィジット・ジャパン・キャンペーンとして、2010年までに「訪日外国人旅行者1千万人」の目標を掲げた。2006年には観光立国推進基本法が成立した。2008年10月1日には国土交通省の外局として「観光庁」が発足し、観光庁が中心となって、上記目標の遂行の効率的、強力な推進を日本政府観光局（JNTO）^{注3)}等、官民一体となって担うこととなった。国内の観光地が外国人観光客誘致に向けてその魅力のアピールにしのぎを削るであろうことに疑いの余地はない。

当然、松本市も県内のみならず、国内の他の観光地との激化する競争に巻き込まれるであろう。長野県内の主だった観光地の外国人宿泊者数を見ても、松本市は平成17年から18年にかけてやや減少してはいるものの、総じて県内3箇所の観光地の外国人宿泊者数は増加傾向にある（表1）。とはいえその傾向がいつまでも継続する保証はない。そうした中で、松本市を真の国際観光都市として魅力ある街に発展させていくためにはどのような対策をとるべきかを検討することが不可欠となるであろう。尾島（1）が述べているように、都市と言うものが「そこに住む生活者によって守り、育てられることで固有の文化を持つ場として生きながらえる」ものであるとするならば、構成人数が多いとは言えないまでも、松本市及び近隣地域（主に安曇野市、塩尻市）に在住する外国人語学教師がその形成の一端を担っていると言えるであろう。彼らがその在住経験から、それらの地域をどう捉え、どう評価しているかを調査することによって、松本住民（日本人）には気づきにくい特徴が浮かび上がってくる可能性が期待できる。

本稿の目的は、在住外国人語学教師に実施したアンケート調査結果を分析し、松本市が外国人観光客に魅力ある街になるためのヒントを探り出し、検証していくことである。

〈表1 外国人宿泊者数〉

（単位：人）

年次	松本市	長野市	白馬村	合計（その他の市町村含）
平成17年	17,402	16,664	21,216	116,630
平成18年	16,661	47,344	33,492	184,055
平成19年	37,731	53,621	40,967	281,469
対前年比%	226.5	113.3	122.3	

資料：松本市観光温泉課による。

2 在住外国人語学教師の松本市および近隣地区に対する評価調査

2-1 調査概要

調査概要は以下である。

調査日時：2008年1月～2月

調査方法：郵送

調査対象者：松本市及び近隣地区の少学校、中学校、高校に勤務する AET（Assistant English Teacher）^{注4）}と語学学校講師。

80校に郵送。内訳は、小学校7校、中学31校、高校19校、語学学校23校である。回答者は55名であった。^{注5）}

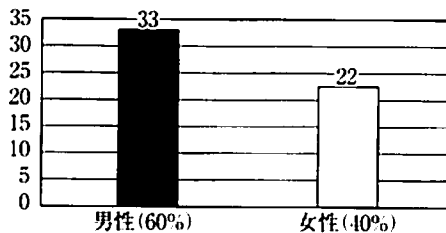
AET や、語学学校講師は、その任期等により、滞在年数が短く、観光目的で訪松する外国人観光客に近いと考え、アンケート調査を実施した。

2-2 調査結果と分析

2-2-1 アンケート対象者性別

問1 ARE YOU.....MALE OR FEMALE?

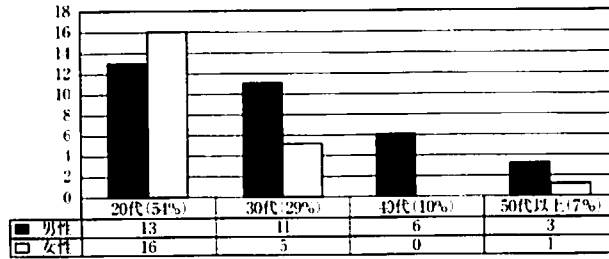
図1 対象者性別



2-2-2 アンケート対象者年齢層

問2 AS FOR AGE, ARE YOU IN YOUR.....?

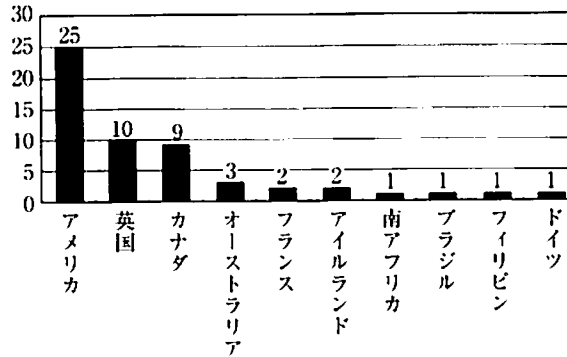
図2 対象者年代、男女別年齢層



2-2-3 アンケート対象者の国籍

問3 WHAT IS YOUR NATIONALITY?

図3 対象者国籍

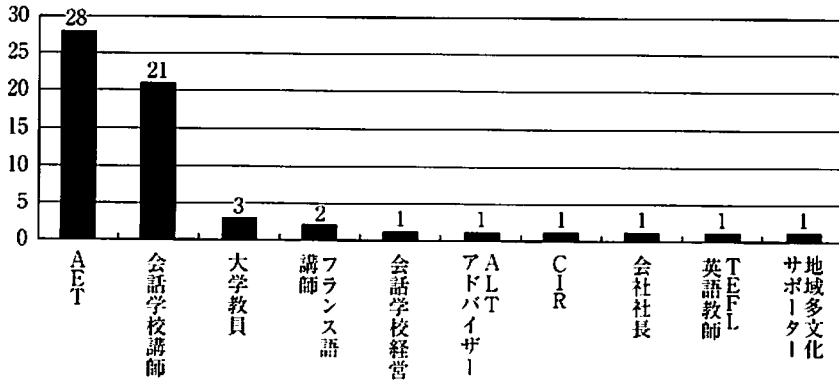


アメリカ人が25名（45%）と圧倒的に多い。次に多いのがイギリス人の10名（18%）。続いてカナダ人が9名（16%）。また、オーストラリア人、フランス人、アイルランド人はそれぞれ2名（4%）であった。フィリピン人、ドイツ人、ブラジル人、南アフリカ人はそれぞれ1名（2%弱）であった。

2-2-4 アンケート対象者の現在の職業

問4 WHAT IS YOUR CURRENT OCCUPATION?

図4 対象者の現在の職業

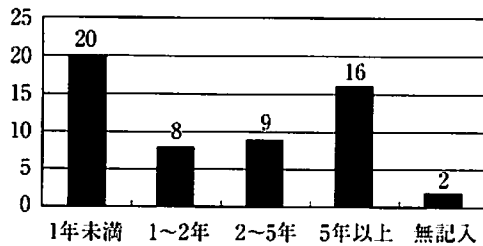


この質問に対する回答者は合計60名となり、調査回答者数と合致しないが、これは複数回答者が5名いたためである。

2-2-5 アンケート対象者の在住年数

問5 HOW LONG HAVE YOU BEEN IN JAPAN?

図5 対象者の在住年数



1年未満が20名（36%）と最多であった。2番目は5年以上が16名（29%）であった。次に2~5年が9名（16%）、1~2年が8名（15%）となり、1~2年は全員AETであった。無記入者が2名あった。

2-2-6 松本市の観光スポットについて

問6 PLEASE COMPLETE THE TABLE FOR THESE TOURIST ATTRACTIONS IN MATSUMOTO.

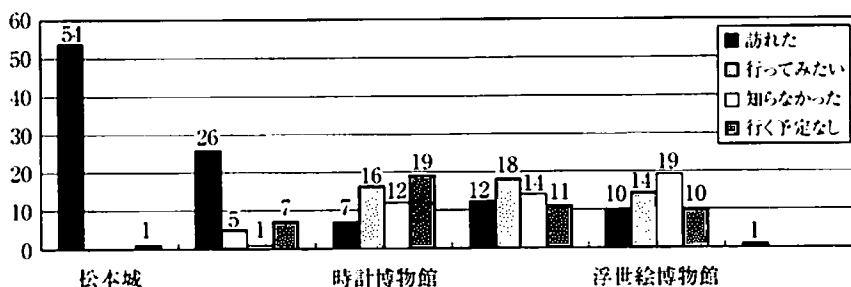
〈表2 観光スポットへの訪問〉

観光スポット	訪れた	行ってみたい	知らなかった	行く予定なし
松本城	54名	0名	0名	1名
松本市立博物館	26名	5名	1名	7名
時計博物館	7名	16名	12名	19名
重文旧開智学校	12名	18名	14名	11名
浮世絵博物館	10名	14名	19名	10名
(松本市美術館)	1名			

* スポットにより、無回答あり。

* 松本市美術館は選択肢に入れなかったが、1名が「訪れた」と欄外への記入があったため、参考上記した。

図6 観光スポットへの訪問



松本城を除く上記4つのうち3スポットは、松本城から距離的に近く、歩いていける範囲であること、また、浮世絵博物館は世界的に価値ある博物館であること、の理由で取り上げた。松本城については実に54名（98%）が訪れている。「行く予定なし」が1名いるが、興味を引く。上記全てのスポットに同様の回答をしているところから判断すれば、松本城だけが例外ではなく、全ての観光スポットに興味が無いことが伺える。松本市立博物館を訪れた人は26名（47%）。「行ってみたい」を合せると31名（56%）で半数以上に上る。時計博物館は7名（13%弱）が訪れ、「行ってみたい」を合せると23名（41%）となるものの、「行く予定なし」が19名（35%）と5スポットの中では一番多い結果となった。重文旧開智学校を訪れた人は12名（22%）であった。また、「知らなかった」が14名（26%）と高く、訪問者を上回った。26%にも上る在住者が「知らなかった」と回答している。浮世絵博物館を訪れた人は10名（18%）。「行ってみたい」が14名（25%）。合せると24名（44%）である。「知らなかった」が19名（35%）。「行く予定なし」が10名（18%）で、「訪れた」と同割合であった。重文旧開智学校同様、「知らなかった」の割合が35%にも上ったのは、浮世絵博物館として所蔵点数の多い博物館であることを考えれば（表3）、観光都市松本の立場からは、広報方法、周知方法に一考の必要性があるのではないだろうか。

〈表3 主な美術館浮世絵所蔵枚数〉

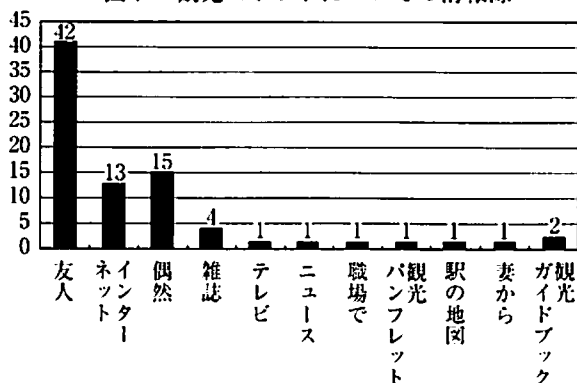
日本浮世絵博物館（松本市）	約 100,000点
大田記念美術館（東京都）	約 12,000点
ボストン美術館（米国）	約 50,000点

資料：*日本浮世絵博物館所蔵点数は日本浮世絵博物館による。
 *大田記念美術館所蔵点数は大田記念美術館による。
 *ボストン美術館所蔵点数は名古屋ボストン美術館による。

2-2-7 上記観光スポットについての情報源（複数回答可）

問7 ABOUT THE PLACES YOU VISITED, HOW DID YOU FIND THEM OUT?
 (circle all that apply)

図7 観光スポットについての情報源



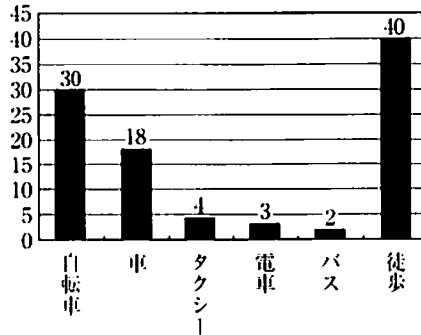
※松本城に関しては「探さなくても見えるから」が3名

「友人」が最も多く42名で約76%を占めた。「口コミ」によるネットワークが重要であると言えよう。次に多いのが偶然の15名（26%）。インターネットは13名（23%）であった。雑誌は4名（7%）であった。

2-2-8 観光スポットへの交通手段（複数回答可）

問8 HOW DID YOU GET TO THESE PLACES? (circle all that apply)

図8 観光スポットへの交通手段

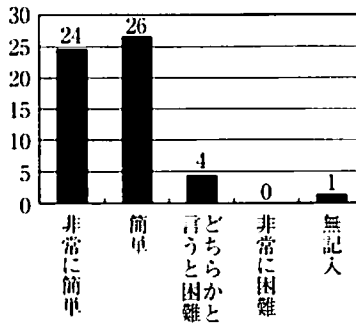


複数回答可としたため正確なパーセントを割り出すことは不可能であるが、4スポットが松本市内のスポットであることを考慮に入れば、自転車30名（53%）、徒歩40名（70%）の圧倒的多数回答は予想通りである。

2-2-9 目的地到着の難易さ

問9 HOW WAS GETTING TO THESE PLACES?

図9 目的地到着の難易さ



「非常に簡単」、「簡単」を合すると50名となり、ほぼ90%に上る。ただし、「浮世絵博物館を除く」との回答があり、「どちらかという困難」は4名（7%）と少ないものの、これにも「浮世絵博物館は」と回答している。他のスポットは松本城近辺であるのに対し、郊外にある日本浮世絵博物館へのアクセスは簡単ではないという当然の結果である。

2-2-10 どうしてそう思ったのか。（複数回答可）

問10 HOW WOULD YOU DESCRIBE THE REASONS FOR YOUR CHOICE?

(circle all that apply)

① 「非常に簡単」と答えた人 24名中

理由 (a) 交通の便 2名 (b) 交通標識 6名

(c) 外国語による情報の入手 5名

* 上記24名の回答者のうち、2名の複数回答者あり。いずれも、日本浮世絵博物

館は「どちらかという困難」としている。また、1名は、「日本浮世絵博物館を除く」と特記している

- ① (c) が最も重要である
- ② 松本市ではバスの便が非常に便利 とのコメントが寄せられた。

② 「簡単」と答えた人 26名

理由 (a) 交通の便 8名 (b) 交通標識 7名
(c) 外国語による情報の入手 8名

* 下記のようなコメントが寄せられている

- ① 観光客には不便と思う ② 道路標識の不備 ③ バスの標識の不備
(長野市ではバスの標識が行き届いている。松本も見習うべき)
- ④ 家から近い ⑤ 自転車がある ⑥ ほとんどが市の中心部にある
- ⑦ 車を持っているから

③ 「どちらかという困難」と答えた人4名（「非常に簡単」との複数回答した2名を除く）

理由 (a) 交通の便 1名 (b) 交通標識 2名
(c) 外国語による情報の入手 2名

* 下記のようなコメントが寄せられている

- ① 方角を訊ねなければならなかった
- ② 道に迷ってしまった
- ③ スポットの場所が街中にはっきり表示されていなかった

注：複数回答有り。また理由に答えなかった回答者が多いので実際の回答者数と一致しない。

図10 ①の理由の内訳

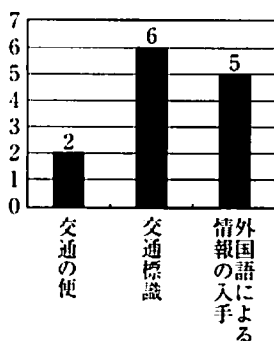


図11 ②の理由の内訳

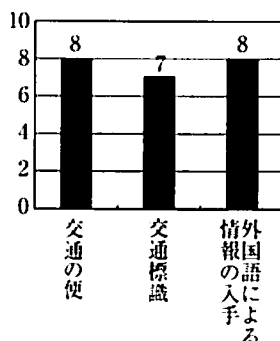
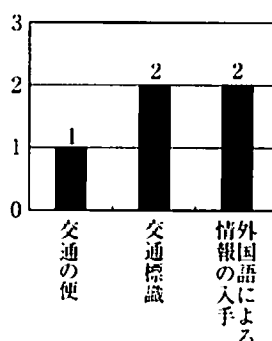


図12 ③の理由の内訳

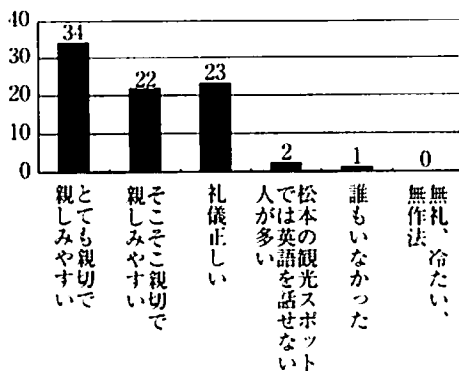


松本市では英語のパンフレットはかなり充実しているはずであるが、外国人の間で広く周知されていないのではないか。英語による表示の少なさ、バスの不便さ、長野市を見習うべきと言う指摘には真摯に耳を傾ける必要があろう。

2-2-11 観光スポットでの人々の印象

問11 HOW DID JAPANESE PEOPLE WORKING OR VISITING THESE TOURIST LOCATIONS SEEM TOWARDS YOU?

図13 観光スポットでの人々の印象



(複数回答あり)

ほぼ全員が「親切で親しみやすい」と回答している。「礼儀正しい」が23名で42%。「配慮に欠ける」、「無礼」、「冷たい」といった否定的回答はゼロであった。

*下記のコメントが寄せられた。

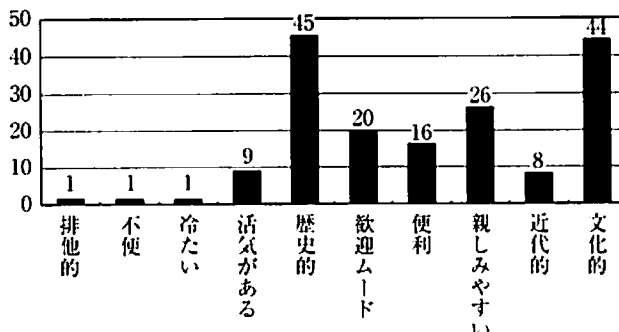
- ① 松本では観光スポットや訪れる場所で英語を話せない人が多い 2名
- ② 誰もいなかった 1名

2-2-12 観光スポットを訪れてみて、松本市の印象はどうでしたか。(複数回答可)

問12 WHAT WAS YOUR IMPRESSION OF MATSUMOTO AFTER HAVING VISITED THOSE LOCATIONS? (circle all that apply)

- ① 文化的 44名
- ② 近代的 8名
- ③ 親しみやすい 26名
- ④ 便利 16名
- ⑤ 歓迎ムード 20名
- ⑥ 歴史的 45名
- ⑦ 活気がある 9名
- ⑧ 冷たい 1名
- ⑨ 不便 1名
- ⑩ 排他的 1名

図14 松本市の印象



文化的、歴史的がそれぞれ44名、45名であった。このことは松本市にとって最大の賛辞

であり、今後も観光地としてりっぱに成り立つという証でもあろう。前野（2）が述べているように、「魅力ある町は、個々の町の歴史に根ざしたものを守り残し、住民が輝き、活力のある町」でなければならない。その点では⑦の活気がある、の9名、という数字はまだまだ改善の余地があるということを示すものであり、高評価の歴史的、文化的という最大のメリットを生かしきれていないのでないか。「親しみやすい」、「歓迎ムード」がそれぞれ26名、20名、「便利」が16名となった。

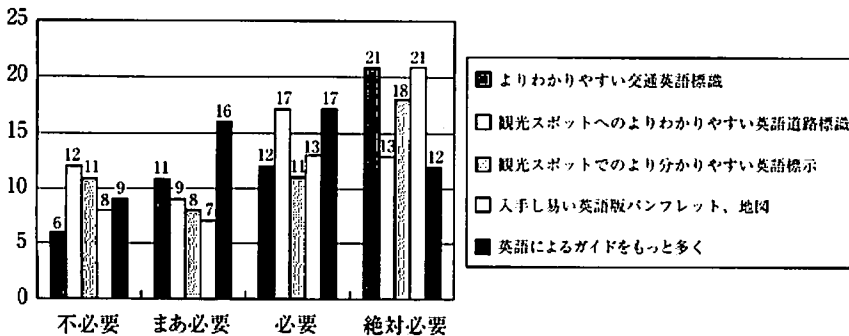
2-2-13-1 松本市が外国人観光客にとってより親切で、好意的であるために松本に求められるものは何か。

問13-1 IN YOUR OPINION, WHAT SHOULD MATSUMOTO DO TO MAKE ITSELF MORE ACCOMMODATING TO FOREIGN TOURISTS?

〈表4 松本市に求められるもの〉

	不必要	まあ必要	必要	絶対必要
よりわかりやすい交通と英語標識	6	11	12	21
観光スポットへのよりわかりやすい英語道路標識	12	9	17	13
観光スポットでのより分かりやすい英語表示	11	8	11	18
入手し易い英語版パンフレット・地図	8	7	13	21
英語によるガイドをもっと多く	9	15	17	12

図15 松本市に求められるもの



よりわかりやすい交通英語標識	まあ必要+必要+絶対必要	77%
わかりやすい英語道路標識		68%
観光スポットでのわかりやすい英語表示		65%
英語版パンフレット、地図		72%
英語によるガイドをもっと		77%

この回答は何を示すものであろうか。在住外国人語学教師が「外国人観光客に求められるもの」として、英語による交通英語標識、道路標識、観光スポットでのわかりやすい英語表示、英語版パンフレット、英語によるガイドを求めていることは、裏返せば、観光目的で短期間松本市を訪れる外国人観光客にとっては不便極まりないことを示唆するものである。残念ながら観光都市としては失格であると言わざるを得ない。即刻の改善が求めら

れて然るべきであろう。池内（3）が「本気で外国から多くの人に来て欲しいなら、すぐに取り組むべき問題は、足と宿の問題だ」と述べているように、松本市が本気で観光都市としての活性化を望むならば、「足（交通手段）」の問題は避けて通れない重要な問題であり、その「足」を導く標識、表示が貧弱なものであってはならない。

2-2-13-2 選択肢以外に他のコメントはありますか。

問13-2 OTHER COMMENTS

17のコメントが寄せられた。それぞれが貴重な意見である。大別すると以下の4項目にまとめられる。

A. 英語又は他の言語でのサービスの配慮が不可欠。

- * 観光に関するインフォメーションの充実（多言語表示、外国語を話せる人の雇用・常駐など）
駅の観光案内所に外国人旅行客を受け入れ可能なホテル・旅館のリスト、英語を話せるスタッフの配置など、案内所の完全充実が必要
- * 日常生活や祭りに関するインフォメーションの提供
- * バスターミナルでの英語標識を含めた街中での多言語表示
- * 日本浮世絵博物館への交通手段の確保

B. インターネット機能の充実が不可欠。（M-ウイングのインターネットアクセス、プリンターへの不満が見られた）。

- * 松本市は無料で利用できるインターネットサービスを提供するべきである。提供することによって松本市を肯定的に捉えることができ、イメージアップにつながる。
- * 多くの観光客が“Wi-Fi”を持っているので、駅でのワイヤレスインターネットの設置は必須。旅行客にとってプラスのイメージをもたらすであろう。
- * アルプス（上高地やその奥地）への登山目的のみに訪れる観光客の数は少なくない。宿や交通の情報を、インターネットを通して英語で完備させれば、松本市はその通過点として存在するのみではなく、さらに広いビジネスチャンスを得ることが出来るであろう。

C. クレジットカード受け入れ体制の充実。（現金引き出し機の充実と英語表示を含む）

D. 学校での英語教育の充実。

どれをとってもありがたい示唆に満ちたものである。これについては第3章で詳しく考察することにする。

3 観光都市として松本市が抱える課題についての考察と提言

第2章において在住外国人語学教師が観光都市としての松本市をどう捉えているかのアンケート調査結果を示し、簡単に分析した。その結果、概ね下記のことが浮かび上がってきた。

- A. 職場や訪れた場所での人々に対する高評価。
- B. 松本の街を歴史的、文化的都市として高く評価している。
- C. 多言語による標識、表示、パンフレット・地図の作成と英語ガイドの増員が急務。
- D. 交通手段の確保。
- E. インターネットなどの整備が不可欠。
- F. クレジットカード受け入れ体制不備の改善
- G. 学校英語教育の改善

そこで、それぞれの課題を今後への提言と併せて検証することにする。

Aについての考察と提言

尾島（1）は「今世紀の世界は（中略）国を超えた世界文明と、人が中心の地域文化都市という形で、都市が主体となる都市間競争の時代になるのだ」と述べている。また前野（2）は「いい町の主役はあくまで住民です」と述べている。この2人の意見を借りれば、2—2—11で見られたように、松本はいい街になるための条件をある程度備えており、松本市は観光都市として都市間競争に耐え得るための人的資源を確保できる状態にあるといえるだろう。今後もこの人的資源が疲弊することのない観光都市作りが求められるであろう。

Bについての考察と提言

歴史的、文化的都市として高い評価を受けたことは「観光都市松本」として喜ぶべき結果と言える。

B—a)「歴史的」との観点からの考察

前出の尾島は「日本人は、日本文化に基づいた日本文明を、自信を持って築き上げ、世界の中で存在していくのが良い」と述べている。また、前野は「魅力ある町は、個々の町の歴史の文脈に根ざしたものを守り、住民が輝き、活力のある町です」と述べている。この意味で、「はじめに」で触れたように、市川量造、小林有也ら、良識有る住民が松本城を守り抜き、今日まで歴史ある街を築き上げてきた松本市は、「歴史の中で住民が積み重ねていった『価値』が見える町並み」（前野）に近いと言える。在住外国人語学教師のアンケート調査結果でも高い評価を得ている事がそれを立証している。またアレックス・カー（4）が述べているように「観光立国のためには（中略）街並みや家屋の再生とか、顧客サービスとか、看板のデザインとか、観光をめぐる知識の蓄積」が必要なのである。松本市はこの点において知識の蓄積を行ってきたといえる。さらにその蓄積を継続し、より発展させながら今後へとつなげていくことも重要課題であろう。そこで、次のことを具体

的な例として提案したい。これは松本最大の観光スポットである「松本城」に関する例示である。筆者はこの提案を、松本市が進める「まるごと博物館構想」（後述）と連動させることを狙い、「まるごと城下町構想」と称することにしたい。

a-i) *千歳橋から大名町地区を城下町の風情が感じられる景観にすること。その為には千歳橋の湾曲道路のいわれを示す看板を現在地からさらに目に付きやすい場所に移動させ、松本駅方面から訪城する外国人に、松本城への第一正式入城門が過去この場所に設置され、千歳橋から北側がかつて松本城の城内であったこと示し、松本城入城時に厳重警戒態勢がとられていたことを知ってもらうこと。

*「大名町」などの旧町名を掲載する風情ある看板を設置し、名前の由来も併せて多言語表記すること。日本のお城が、建物のみではなく、大名住居等を含めた広大なテリトリーであったことを示すことで、権力の象徴であった築城に傾けた日本人武士の真髄と英知を理解してもらう好機となろう。また、街中にある市街戦を想定した丁字路・鉤の手・食い違い・袋小路などの城下町に必須であったこうした防御施設説明の表示も掲げ、いにしへの城下町のさまざまな工夫に思いをはせてもらいたいものだ。

a-ii) 入城を太鼓門に限定することも是非提案したい項目の一つである。第一関門通過を許可され、大名町を通過し、北上すると平城^{注6)}である松本城の重要な防御機能である外堀^{注7)}に突き当たる。現在は外堀の天守南側と西側部分が埋め立てられているため直進できる。しかしながら、昔はここで右折して進み、さらに左折し、鶴の首を経て、太鼓門へと到着した。二の丸入城への唯一の門であった。さらに枳形などを経て黒門へと至り、ここで初めて本丸への入城に至るのである。天守に至るまでのさまざまな防御の方法が結集されている日本の城郭を実体験してもらうことは、日本の古城の特異さを理解してもらう絶好の機会となり、国の宝の価値が高まるものと期待できよう。現在使用の埋門も同じく閉鎖すべきであろう。少々の時間増や不便さに勝る満足につながるものと確信する。世界遺産への登録^{注8)}を視野に入れるならば、是非とも実行に移すべきである。外堀の復元^{注9)}と併せての実現は、「歴史的街並」の価値を高め、観光客の誘致に大きな武器となるであろう。外堀復元実現の可能性が高くなければ、まずは太鼓門入城の実現化の推進をはかってもよいであろう。天守という建物だけをただ点として捉えるのではなく、「お城」と言う定義を深く知ってもらい、城下町的全貌をアピールするためには周辺景観の歴史的保存が重要である。

B-1 b) 「文化的」との観点からの考察

いわゆる「文化の香る街」と称されることの多い松本市は、「学都」「楽都」「岳都」と呼ばれるようになって久しい^{注10)}。「学都」とは「アカデミックな環境・土壌を持ち、それを育てていく都市」と言い換えることが出来る。平成12年には、「まるごと博物館構想」^{注11)}がスタートしたが、これは市内の博物館、資料館、14を含む計17の施設のある松本市全体を「1つの大きな博物館」として捉える構想のことで、諸施設を単に観光スポットと

してだけではなく、学術的に意義深い財産として認識しようとするものである。

「楽都」は「音楽の街」の意味である。世界的に高い評価を得ている音楽教育機関「スズキ・メソッド才能教育研究会」の発祥の地は松本市である。1994年からは大規模な音楽祭「サイトウ・キネン・フェスティバル」が開催されているが、これによって松本市は海外から更なる音楽的関心を集める都市になっており、フェスティバルの出演者、関係者などは世界各地から多数来松している。

「岳都」とは言うまでもなく、美しいアルプスの山々に囲まれた街であることを示すものであるが、近年ではさらに、その山々からの恵まれた水資源も加えた^{注12)}「美しい山岳」と「豊かな水の街」として、その意味合いを膨らませている。

これら3「ガク都」の諸要素は、他都市には見られない松本市が誇る文化財の数々であり、松本市の文化的イメージを高めていることに疑いの余地はない。

しかしながら一方で、松本市民以外の国内外の人々に、上記3「ガク都」の印象が複合的・統合的に伝わっているとはいえないのが現状である。各分野の関係者や市民全体がより協調し合い、街の魅力の諸要素を大きな「パッケージ」として積極的に発信していけるよう、その具体策を模索していくことが、これからの課題となるだろう。筆者はその「パッケージ」を「山・音・学びの3ガク都」と称することにしたい。

Cについての考察と提言

前章2—2—13—1の間13—1において、「よりわかりやすい交通と英語標識」「観光スポットへのよりわかりやすい英語道路標識」「観光スポットでのよりわかりやすい英語表示」「入手しやすい英語版パンフレット・地図」「英語によるガイドをもっと多く」の不足を訴える回答が全て70%前後と、高い割合を示している。このアンケートの質問が、『観光都市松本』として、外国人観光客により優くなるためにはどうすればよいか、を目的としていたため、在住者としてはあまり不便を感じないが、旅行者として訪れる外国人観光客にとってはさらに改善の余地があるとの親切で素直な感想であろう。観光都市として生き残るためには見逃せない大事な指摘である。そこで次のことを提案したい。

① 2008年3月初旬、熊本城を観光資源とした街づくりを進めている熊本市への視察旅行を行った。

まず、熊本市内の案内板に注目すべき点があった。案内板は姉妹提携都市3市^{注13)}の3言語で記されてあった。翻って松本市の現状は在住外国人語学教師指摘の通り、基本的な案内板等すら不足している状態である。早急に案内板の効果的設置を考え、熊本市に倣って、松本市の玄関口である松本駅・タウンズニーカーの乗り場・バスターミナル・その他市内要所に姉妹提携都市^{注14)}の言語での標記を提案したい。

② シンガポール、シドニーなどの海外都市や東京都でも実施されているバスの行き先表示の番号化に取り組み、外国人在住者や観光客が簡単に利用できるよう改善すべきである。また、市内周遊バスや、割引タクシーツアーなどの充実も視野に入れたいものである。

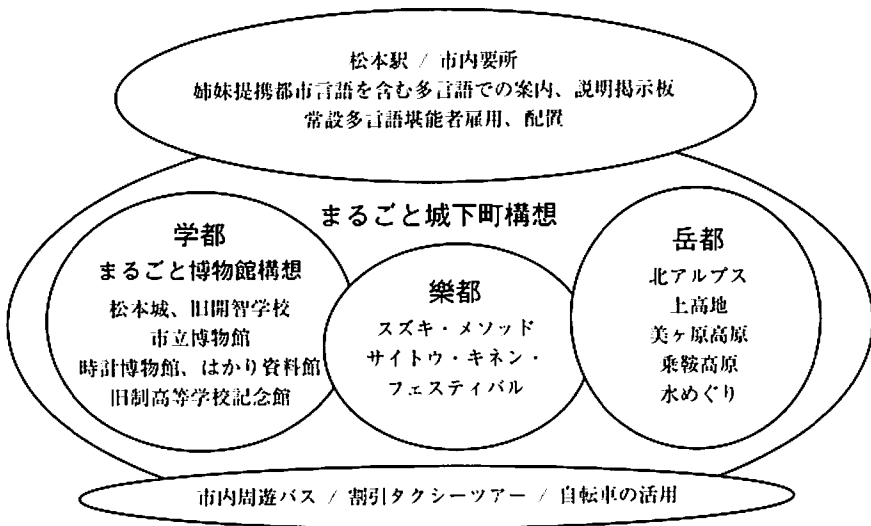
③ 「松本市の観光スポットと案内所には英語を話せない人が多い」との無視できない指摘があった（2—2—11）。この件に関しても、語学堪能者雇用の予算化をはかり、正規雇用者として人材を確保することが急務となろう。「国際観光都市松本」としての名に恥じぬよう、取り組むべきである。

Dについての考察と提言

松本市には多くの博物館、資料館、美術館があるが、現在では市内にあるそれらと、市郊外にあるものをつなぐ交通手段が乏しいばかりではなく、外国人観光客が情報を入手する手段も皆無に近い。特に、問13—2でも指摘されたように、日本浮世絵博物館への交通手段が確保されていない。日本浮世絵博物館は、松本城と並び称されても不思議ではないほどの貴重な博物館である（表3）。松本市所有の博物館ではないが（個人所有）、松本市が観光都市として発展していくためには欠かすことの出来ない力強い味方であろう。また、「日本浮世絵博物館」に隣接して「松本市歴史の里」^{〔注15〕} という、歴史ある、貴重な建物群が保存されている。現在、合同庁舎までタウンズニーカーが運行されていることを考えれば、もう少し延長し、松本の西方に位置する文化財産を観光地の魅力として多くの人に周知させるよう、前向きに対処するべきであろう。これらの構想を単に「思いつき」で終わらせるのではなく、部・課・官・私を越えた強固な連携による具体的実行がなければ、他都市に遅れを取るばかりではなく、すばらしい文化財と「まるごと博物館構想」そのものが埋没してしまう可能性もある。交通手段の確保は重要な課題である。

B、C、D提言をまとめると下記構図のようになる。

「山・音・学びの三ガク都 松本市」



Eについての考察と提言

現在、M-ウイングと観光情報センター（大名町）には、外国の人が使用できるパソコンが設置されている。しかし、2-2-13-2で指摘があった通り、在住外国人のみではなく、訪松外国人の使用も考慮に入れたM-ウイングと観光案内センターのインターネットサービスの早急な改善が望まれる。

Fについての考察と提言

カード受け入れ体制の不備はかなり以前から指摘される所であり、松本市のアキレス腿といっても言いすぎではない。松本市にはクレジットカードの受け入れ可能な店が少ない。しかしカード導入を他者の論理のみによって迫られることについては賛否両論あろう。海外はカード社会であるが、日本は、特に地方都市はまだそこまで至っていない。しかも毎日外国人の客が来るとは限らないのが現状である。カード受け入れにかなり抵抗を感じる店のあることはある意味いたし方無いことかもしれない。それではどうするべきか。

カードを使用したい客はしばしば現金をあまり多く持ち合わせていない。現金引き出しの必要性が生ずるが、これが松本では大問題なのである。語学ボランティア従事者の日本人にとってさえ何処に行けばよいかの情報は乏しい。大手銀行、郵便局本店などの大きな金融機関を訪ねても引き出し不可能である。街中を訪ねまわり、最後にやっとどり着くのがパルコの地下である。ここに現金引き出し可能な機械が1台設置されている。外国人と言語コミュニケーションができる松本在住者の案内がなければ、現金引き出しはほぼ不可能に近いという実情がある。よってまず、駅の観光案内所と、銀行、郵便局に現金引き出しカード利用についての情報を置くべきである。と同時に、仕事上外国語を使用する日本人および語学ボランティア従事者の日本人への情報の提供を提言したい。

Gについての考察と提言

学校英語教育の改善は松本市に限ったことではなく、日本全体の問題でもある。近年、学校英語教育、特に小学校英語教育に関しては、識者の間でさえ意見が分かれている^{注16)}。しかし、それにしても松本市の英語教育の方針は一般には見えてこないのではないか。外国人観光客の多い松本市は即刻に英語教育の方針を目に見える形で示すべきであろう。また、実用的なコミュニケーションの取れる形での語学の習得を考慮に入れていかなければいけないのではないか。簡単ではないが、アジア諸国の中でも下位に近い現在の英語能力の状態は^{注17)}、憂えて然るべきであろう。古いものを大切にすると同時に、グローバルな視点に立った言語スキルの取得と円滑なコミュニケーションは、文化香る、歴史的、文化的街並みを広く世界に知ってもらうためにも必要であり、今後松本市が国際観光都市として生き残っていくためには見逃してはならない重要課題であろう。

4 おわりに

本稿では、在住外国人語学教師へのアンケート調査結果の分析を行い、観光都市として

の松本市の現状を探り、それらが示した結果を基に、今後の課題を検討してきた。在住外国人語学教師のアンケートが示唆した課題の改善・克服は実現不可能ではない。迅速に実行に移すことで、松本市が観光都市として十分にその魅力を発揮でき、他都市と比較しても勝るとも劣らない魅力ある街に変わる可能性があることを提示してくれた。松本市を愛する関係者、行政、市民も共に、知恵と力を結集し、松本市が21世紀の活力ある国際観光都市となることを願ってやまない。

謝辞

熊本市教育委員会生涯学習部文化財課文化財保護主事の稲津暢洋氏には、熊本市視察旅行時に、市内をご案内、ご説明いただきました。心より御礼申し上げます。

また、NPO法人アルプス善意通訳協会理事長小笠原陽一郎氏、副理事長市川兼三氏、北上常孝氏、城担当理事藤沢雄次氏には、熊本視察旅行への同行を含め、史実の考証など、色々アドバイスを頂きました。

藤沢雄次氏には本論文のグラフ作成にご協力いただきました。ありがとうございました。

注

注1) 市川景造と小林有也

市川景造：1873年、松本城が競売に附されることになり、城門、櫓などの破却が進められた。市川氏は本丸庭園で博覧会を開催し、成功した資金で現存の天守はじめ櫓を買い戻し、競売から松本城を救った。

小林有也：松本中学校長として1914年まで29年間在職し、松本町長小里瀬永氏とともに天守閣保存会を設立し、その補修工事を行った。

二人は天守保存の恩人と称される。

注2) 1936年4月20日、国宝保存法第1条により国宝に指定される。

1952年3月29日、文化財保護法第27条第2項の規定により国宝に指定される。

注3) J N T O : Japan National Tourist Organization

昭和39年4月、特殊法人国際観光振興会として発足。2008年6月7日からは、通称「日本政府観光局」を用いる。海外で日本の観光宣伝や、日本に来訪した外国人旅行者への観光案内などを行ってきた。

注4) A E T : 英語指導助手のこと。現在は、英語に限らず、広義で外国語授業の補助を行う外国語指導助手の意味のA L T (Assistant of Language Teacher) と呼ばれることが多くなってきた。

注5) 同一AETが複数校で教えている場合があり、学校数ではなく、回答者数を記載してある。

注6) 日本の城は大きく山城、平山城、平城の3つに分類される。松本城は平城である。

注7) 平城である松本城は天守側から内堀、外堀、総堀の3つの堀を有する。

注8) 松本市は平成18年、松本城単独での世界遺産登録を目指して提案書を文化庁に提出したが、「継続審議」とされていた。平成19年12月13日、遺産登録に向け、国内候補の暫定リスト入りを目指し文化庁に再提出する提案書を公表した。

注9) 外堀は大正8年から昭和3年にかけて埋め立てられた。市は昭和52年「外堀の復元」を盛り込んだ整備計画を立てたが、事実上の棚上げ状態となっている。菅谷昭市長は、平成19年、市制百年の節目に復元に着手する決断を下した。

注10) 「楽都」「岳都」「学都」構想は1982年の鈴木メソッド世界大会前後から大きく提唱され始めた。

注11) 国宝松本城、重文旧開智学校、旧制松本高等学校なども含まれる。

注12) 松本市は「城下町湧水群構想」をスタートさせ、現在「まつもと水巡り」3コースがある。

注13) 桂林市(中国)、サンアントニオ市(米国)、ハイデルベルグ市(独)

注14) ソルトレークシティ(米国)、カトマンズ市(ネパール)、廊坊市(中国)、グリンデルワルト市(スイス)

- 注15) 旧長野地方裁判所松本支部庁舎、木下尚江生家、工女宿宝来屋などがある。
- 注16) 立教大学教授、鳥岡久美子氏と秋田国際大学学長、中嶋峰雄は意見を異にしている。「朝日新聞」2006年4月24日付朝刊「きょうの論点」欄
- 注17) TOEFLの点数は1999年度、アジア21カ国中、最下位。2000年度は18位である。

引用文献

- (1) 尾島俊雄『この都市のまほろば』2005 P3、中央公論社
- (2) 前野まさる『朝日新聞』：2008年9月17日付朝刊「オピニオン」欄
- (3) 池内 紀『朝日新聞』：2008年9月17日付朝刊「オピニオン」欄
- (4) アレックス・カー『朝日新聞』：2008年9月17日付朝刊「オピニオン」欄

参考文献

竹内 力編『国宝松本城 解体と復元』1980、成進社印刷所